



ボランティアセンター講座

～スポーツボランティア2020～

10月18日（木）、25日（木）、27日（土）の3日間、南大沢キャンパス1号館110教室にて、「ボランティアセンター講座～スポーツボランティア2020～」を開催しました。学内外の学生や地域の方々にお越しいただき、3日間で合計58名が本講座を受講されました。

～第1講座～

オリンピックの基礎知識とボランティア

講師：舛本直文先生

第1講座では、講師に舛本直文先生をお迎えし、【オリンピックの基礎知識とボランティア】についてお聞きしました。講座前半では、「オリンピックは何のために開催されているのか」といったオリンピックの開催意義から丁寧に教えていただき、オリンピック開催の歴史について学びました。

みんなの輝き、つなげていこう
Unity in Diversity

これは、私たちがニュースやCM、駅のポスター等でよく目にする、東京2020大会の広報メッセージです。このメッセージには、大会の3つの基本コンセプトである、「全員が自己ベスト」「多様性の中の調和」「未来への継承」の意味がそれぞれ表現されているそうです。

各大会ごとに、大会ビジョンや基本コンセプト、このような広報メッセージが設定されているのですが、皆さんはご存知ですか。2020年に向けて、オリンピック・パラリンピックに関連した情報は、とても身近なものとなっていますが、その一つひとつの意味について理解を深めると、オリンピック・パラリンピックの新たな一面が見えてくるかもしれません。舛本先生は、「大会への関わり方として、見る、支える、伝える、学ぶ、この5つがとても重要である」と話されていました。

講座の後半には、1964年の東京大会や1998年の長野大会（冬季）を含めた過去大会でのボランティアの活動を映した貴重な映

像資料を見せていただきました。大会運営ボランティアを『Games Maker』、観光ボランティアを『London Ambassador』と称したロンドン2012大会の映像には、ボランティアが外国人観光客に道案内をしていたり、国旗が描かれたピンバッジの交換等を楽しそうに活動していたりする様子が映っていました。『ピントレーダー』と呼ばれる「自国の国旗などが描かれたピンバッジを他国の人と交換することを楽しみにしている観光客」は毎大会いるそうです。シティガイド等の役割を通して、多くの外国人観光客と接する「会場外でのボランティア」だからこそ、ピントレードのような楽しみがあるのでしょうか。ボランティアとして自分の役割を果たすことは、もちろん大事なことです。それに加えて、ボランティアだからこそ得られる楽しさがあるのだと感じました。

東京2020大会では、「大会ボランティア」「都市ボランティア」が各所で活躍する予定です。ボランティア募集が始まった今、改めてそれぞれの役割や魅力を知ることができ、より一層、2年後のイメージが膨らんだのではないのでしょうか。

～第2講座～

パラリンピックの基礎知識とパラリンピアンから見たボランティア

講師：信太奈美先生、平澤奈古選手

第2講座では、講師に信太奈美先生と平澤奈古選手をお迎えし、【パラリンピックの基礎知識とパラリンピアンから見たボランティア】についてお話を聞きました。

信太先生には、「スポーツとは何か」から始まり、「障がい者スポーツ」や「スポーツボランティア」の魅力についてお話しいただきました。平澤選手からは、アーチェリーを始めたきっかけやご自身が出場されたパラリンピック、アジア大会等の国際的なスポーツ大会の様子をお聞きしました。

お二人の対談の中では、選手とボランティアの関わりについて、平澤選手ご自身の経験談を交えたお話がありました。先日インドネシアのジャカルタで行われた『アジア大会2018』では、各国各競技のチームごとに担当の学生ボランティアが配置され、「パスの手配」や「ランチの注文」ま

TOKYO2020

応援プログラム

ボランティアセンター講座 スポーツボランティア 2020 報告

2018/10/18,25,27



講師の舛本直文先生

首都大学東京オープンユニバーシティ
特任教授／日本オリンピックアカデミー研究委員長
オリンピック教育をご専門とされており、本学では、オープンユニバーシティでの「オリンピック伝道講座」や公開講座「オリンピック文化論」等をご担当されています。



講師の平澤奈古選手

◆現役アーチェリー選手
〈アテネ2004年パラリンピック〉
アーチェリーW1/W2個人銅メダル、
団体4位
〈リオデジャネイロ2016パラリンピック〉
アーチェリー女子コンパウンド個人9位

で、ボランティアが幅広く活動していたそうです。選手が競技を行う時だけでなく、その国で過ごしている間の生活においても欠かせない存在だったとお話されていました。さらに、ジャカルタ特有の暑さから、競技場で選手に日傘を差すボランティアもいたそうです。開催国の環境によって、様々なボランティアの役割があり、大会や選手を支えているということが分かりました。

一方で、ボランティアとの関わりで困ったこともあったそうです。例えば、競技会場への移動。選手はボランティアが運転するバスに乗り、競技会場まで移動するのですが、運転手が道を知らなかったり、間違えてしまったりしたことがあったとのこと。結局、選手が運転手に道を伝えることで、無事に会場に到着することができたようですが、「結局なんとなかなるんですね」と平澤選手が話すように、ボランティアに多少のミスがあっても、ボランティアと選手がお互いに協力することで、大半のことがうまくいくとご自身の経験をもとにお話されていました。

また、オリンピック・パラリンピックのボランティアにおいては、英語を含めた言語に不安があり、外国人とのコミュニケーションを心配している方が多いかもしれません。平澤選手が参加した大会にも英語を話せないボランティアの方々がたくさんいらっしゃったそうです。しかし、言語の違いがあっても「聞き取ってあげよう」という態度があれば、大半のことは伝えることができたと話していました。意思疎通がうまくいかないことがあっても、このような態度で相手に接することができれば、お互いに嫌な気持ちにはなりません。これは、大会期間中のボランティアだけでなく、日常の中でのコミュニケーションにおいても、重要なポイントだと感じました。



△平澤選手が獲得されたメダルを見せていただきました

～第3講座～

オリンピックボランティアに聞く

講師：谷口晃親氏
案内役：舩本直文先生

第3講座では、講師に谷口晃親さん、案内役に舩本直文先生をお迎えし、【オリンピックボランティアに聞く】をテーマに、お話しいただきました。

谷口さんは、大学院在学中に、「日本語を話せるボランティアが不足している」ということを知り合いから聞いたことから、リオデジャネイロ2016オリンピックに参加し、言語ボランティアとして活動されました。

谷口さんは、次回大会の視察のために会場を訪れた小池百合子東京都知事も案内されたそうです。会場を訪れる人の中には、観光客だけでなく、各国の要人や自分の競技の合間に訪れる選手たちもいます。多くの方々と接する分、ボランティアの印象が大会の印象につながるといっても過言ではありません。小池都知事との写真に笑顔で映る谷口さんを通して、リオ2016大会の楽しそうな雰囲気を感じることができました。

また、ご自身が担当していた競泳会場以外に、選手村にも行く機会があったそうです。選手村に関するお話の中では、「入村式」のお話が印象的でした。メダルの獲得が望めない国にとっては、選手村の入村式が国歌を聞く唯一の機会となります。そのため、国を背負って戦う選手は皆、真剣に入村式に臨むそうです。東京2020大会では、「大会ボランティア」の役割の中に選手村での活動が含まれています。ボランティアとして大会に関われば、このような場に立ち会う機会があるかもしれません。

また、リオ2016大会では、各競技で余った観戦チケットをボランティアとして参加した人へ優先的に配布していたというお話がありました。谷口さんも様々な競技を観戦したそうですが、メディア等ではあまり取り上げられていません。東京2020大会では、同様の機会があるか分かりませんが、そのような幸運に恵まれる可能性があるかもしれません。

谷口さんのお話は、リオ2016大会の例であり、必ずしも東京2020大会で同様のことがあるとは限りません。しかし、東京2020大会には、これまで以上の魅力があるかもしれません。

受講者の方々がボランティアとしての参加を考える中で、大変参考になるお話でした。

～受講者の感想～

ー第1講座より

・「オリンピックの基礎知識が足りないと考えていたので、その点の話を聞くことができて良かった」
・「ボランティアに関する課題、活動するにあたっての心構えなど様々な情報を期待以上に教えていただき学べた」

・「都市ボランティアの魅力について知ることができました。オリンピックについての根本的なこと、オリンピックは何のために開催されるのか、2020年のビジョン等、改めて勉強になりました」

・「オリンピックの基本精神からボランティアとしての心構えまで良く理解できるようなキッカケを与えていただきました」

・「オリンピックは"平和の祭典"という意味をわすれてはいけないと感じた。ボランティアでも行動意識がかわった」

ー第2講座より

・「アスリートの方から見たボランティアの存在がどういふものなのかがよく分かって良かったです」

・「バラスポーツへの興味がより一層わき、もっと楽しみたい、周囲にもすすめたいと思いました」

・「パラリンピックへの関わり方、心構えという点で勉強になりました。アテネ・リオなどのパラリンピックでの実体験を興味深く聞かせていただき、ボランティアの役割が、選手の生活全般に関わっていることがわかりました」

・「バラスポーツは実際にあまり知る機会が無く、今日取り上げてくださって学ぶことが沢山あった。実際の競技者から魅力を聞くことができ、2020年を注目していきたいと思います」

ー第3講座より

・「実際にオリンピックボランティアに参加された人の話をきくことでイメージが持てた」

・「ボランティアの実体験の話が大変参考になりました」

・「内情を聞いてボランティアに参加するか迷っていたが参加しようと思うようになった」



講師の信太奈美先生

首都大学東京健康福祉学部理学療法学科 助教/首都大学東京ボランティアセンターアドバイザー/日本パラリンピック委員会（医・科学・情報サポート部会、医科学委員会アンチドーピング部会）

障がい者スポーツをご専門とされており、車いすバスケットボール等、様々な競技・大会に関わっておられます。



講師の谷口晃親さん

リオデジャネイロ2016オリンピックボランティア経験者/日本オリンピックアカデミー会員
リオデジャネイロ2016オリンピックでは、日本語を話す言語ボランティアとして活動されました。



ボランティアに配布されるグッズ

谷口さんが当時使っていたらしゃったアクレディテーションをご持参いただき、見せていただきました。アクレディテーションは、大会時の身分証明書のようなもので、バスポートのような機能があります。このアクレディテーションがあれば大会関係者として扱われ、一般の観光客では入れないところにも入ることができます。